

2024 年度特定非営利活動法人わあく
事業報告書（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

1. 事業実績概要

障がい者・高齢者支援、多世代共生、地域共生型拠点、保育、環境保全など 12 の事業を展開。新設や移管を含む運営体制の見直しとサービスの質向上、地域連携強化、BCP 整備等に取り組みました。高齢者グループホーム、あったかほーむいしべ宿、あったか保育室つぼみ、障がい者グループホームならびに環境保全活動の各種事業を実施しました。

2. 主な事業別実績概要

① 高齢者グループホーム「わいわい」

- 入退居：入居 1 名、退居 3 名。平均利用 8.4 人
- 主な取組：認知症ケアの深化、看取り期対応の充実、感染対策、運営推進会議 6 回開催
- 地域連携：自治会参加、緑のカーテン・絵手紙交流、サロン・リース作り体験等
- スタッフ研修：認知症・虐待防止研修、会議によるケアの質向上

② グループホーム「きらく」

- 定員：4 名（全室障がい者グループホームに用途変更）
- 特徴：多世代共生型ホーム。生活支援・余暇支援・就労支援の統合的実施
- 収支：収益 1,103 万円／費用 676 万円／黒字 426 万円

③ グループホーム「南花（さざんか）」

- 2 棟体制で 9 名が生活。日中支援型・シェアルーム型含む多様な居住形態
- 特徴：市民農園との連携や福祉避難所協定
- 収支：収益 4,307 万円／費用 3,566 万円／黒字 741 万円

④ グループホーム「ホワイトハウス」

- バリアフリー対応、男女 7 名入居
- 看護師巡回による健康支援、就労安定化、夜間巡回支援体制あり
- 収支：収益 2,039 万円／費用 1,940 万円／黒字 99 万円

⑤ グループホーム「My ほーむ」

- 20 代～50 代の 7 名入居。一般就労 3 名
- 特徴：個人目標設定による「スモールステップ支援」、家族とのつながり維持
- 収支：収益 1,936 万円／費用 1,905 万円／黒字 31 万円

⑥ 地域共生型拠点「あったかほーむいしべ宿」

- 利用：乳幼児、学童、障がい児者 41 名が一時支援等で利用
- ボランティア・防災訓練・地域連携（秋まつり、紙芝居等）を実施
- 収支：収益 1,650 万円／費用 2,042 万円／赤字 392 万円（運営課題あり）

⑦ グループホーム「ころん」

- 少人数制（3 名居住）、ご夫婦・単身居住者の個別支援を実施
- 特徴：旅行や余暇の多様化、世話人との関係構築、災害備蓄体制あり
- 収支：収益 632 万円／費用 702 万円／赤字 70 万円

⑧ 小規模保育「つぼみ」

- 0～2 歳児向け地域型保育、定員 10 名。環境整備・保護者支援を強化

- ICT 導入（コドモン）により保護者連携を深化
- 収支：収益 3,096 万円／費用 2,698 万円／黒字 398 万円

⑨ グループホーム「こみち」

- アパート型ホーム。3 名が個別住居に居住
- SNS 等による支援・見守り。今後はサテライト化を予定
- 収支：収益 495 万円／費用 263 万円／黒字 232 万円

⑩ グループホーム「ましろ」

- 女性専用、7 室。生活力向上・自立支援に重点
- 余暇支援・外出・就労支援を連携して提供
- 収支：収益 1,771 万円／費用 1,518 万円／黒字 253 万円

⑪ グループホーム「はいつ」

- アパート型ホーム＋サテライト 1 室。住人の自律を支援
- エンパワメント支援を重点化、地域との交流・旅行等も実施
- 収支：収益 1,564 万円／費用 1,219 万円／黒字 344 万円

⑫ グループホーム「あると」

- 2024 年 5 月新設。開設初年度で運営費が先行し赤字
- 今後、こみちとの連携（本体・サテライト）で体制整備予定
- 収支：収益 1,102 万円／費用 2,256 万円／赤字 1,194 万円

3. 法人運営・共通取組

▶ 理事会・三役会

- 年 3 回理事会を開催し、事業報告・予算・事業移管等を審議

▶ 事務局運営

- 勤怠・財務システム導入、BCP 策定、相談支援強化、ホームページ情報発信

▶ グループ化の推進

- 3 グループ体制で事業所の連携強化、移管・統合・スリム化を段階的に実施

▶ 職員研修・キャリア支援

- 国家資格取得助成、法人内外研修の受講支援

▶ 虐待防止体制

- 第三者委員会による検討会を年 3 回開催。虐待防止研修も実施

▶ 地域連携・環境活動

- 市民農園運営、環境保全活動（自治会連携）、地域研修・広報・行事参加

▶ 福祉避難所協定

- 「わいわい」「南花」「ホワイトハウス」で市と協定締結済み。今後の備蓄整備が課題

4. 全体収支と運営課題

- 黒字事業が多数を占めた一方で、新設施設「あると」や地域拠点「あったかほーむいしべ宿」等に赤字が見られました。
- 継続的な体制強化と収支バランスの改善、新法人連携・事業移管に伴う安定運営が喫緊の課題です。

2. 事業の実施に関する事項

①高齢者グループホーム「わいわい」運営事業

内容	認知症高齢者の地域生活支援
＜実施場所＞	湖南省石部東七丁目 5 番 25 号
＜実施時期＞	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日
＜事業の対象者＞	湖南省内に居住する認知症の高齢者
＜決算状況＞	経常収益 4,700 万円 経常費用 6,284 万円 損益▲ 1,314 万円



＜利用状況＞

- ・2024 年度中には 1 名の入居、3 名の退居がありました。
年平均の入居状況(在籍人数)は、8.6 人で、外泊・入院を除く利用状況は、8.4 人でした。

＜2024 年度目標＞

- ① お年寄り1人ひとりの尊厳を見つめ直します。大切なものを深く知り、思いを共にしていきます。
- ②スタッフ 1 人ひとりがスキルアップを目指します。積極的に研修を受講します。

＜目標に対する評価＞

- ①日々のくらしのなかでご本人の大切なものを知り、尊厳を重ねながら思いを共にしました。
- ②スタッフ全員が認知症に関する研修を受講しました。ケアマネージャーや看護スタッフが受講した研修が多くありました。

＜認知症ケア＞

- ・あんばいいいんかいや全体会議にてお一人おひとりの認知症の症状やBPSD（認知症の行動・心理症状）に関して学び、ケアに反映させました。
- ・定期的に認知症専門医に受診されている方に関しては、その専門医から環境面やケアをする上でのアドバイスをいただきました。
- ・ホーム内で解決の難しいケースに関しては、市の担当者と複数回やりとりを行い、方向性を見出しました。

＜健康管理＞

- ・当事業所所属の看護師 2 名、訪問看護ステーションおよびかかりつけ医との 24 時間の医療体制を敷き、体調に変化がある場合は、直ちに連絡をとり指示を仰ぎました。
- ・必要により、かかりつけ医以外の診療科への受診につなげました。
- ・日々の健康状態やバイタルを一覧できるように、看護師の業務を見直しました。
- ・歯に関しては、地域の協力歯科医院の訪問歯科診療を受けました。
- ・毎朝の体操に取り組みました。

- ・今年度、入退院をされた方は2名でした。
- ・法人内事業所と共有でAEDを設置しています。わいわい駐車場には、案内の看板を掲げています。
- ・新型コロナウイルス等の感染予防対策に取り組みました。
- ・標準予防策として、スタッフは、マスク・フェイスシールド・手袋を着用し、ケアに当たりました。5類移行後は、基本はマスクのみとし、必要に応じて手袋を着用しました。
- ・擬陽性対応時には、マスク・フェイスシールド・手袋に加えて、ガウン・スリッパを着用しました。
- ・お年寄りの体調変化だけでなく、スタッフやスタッフの家族の健康管理にも配慮しました。勤務に支障を及ぼす可能性のある場合は、ホームで管理している検査キットを随時使用しました。
- ・ノロウイルスの感染が拡大した際には、感染症対策を強化しました。保健所とのやりとりも行いました。

<看取り期のケア>

- ・本人の苦痛を和らげ、思いに寄り添える様なケアを心がけました。日々の丁寧なケアの積み重ねが看取り期のケアに繋がったと思います。
- ・医療的ケア（喀痰吸引等）が必要とされる方は、訪問看護ステーションとご本人が直接契約を結ばれ、また、当ホームの看護師と、複数でケアにあたらせていただきました。
- ・ご家族と連絡を密に取ることにより、お互いの方向性を確認しあいながら進めました。

<地域との交流>

- ・引き続き自治会の会員となり、諸活動に参加しました。
- ・環境ボランティアの方にゴーヤの苗を植えていただき、緑のカーテンを作ることができました。
- ・サツマイモの空中栽培に協力しました。
- ・ご近所の方より、野菜や果物、お花をいただきました。手作りの銀杏ご飯をいただきました。
- ・湖南省社会福祉協議会から「こころあったかおてがみプロジェクト」による市民からの応援絵手紙をいただき、みんなで鑑賞しました。
- ・文化ホールで行われたまちづくり協議会主催のサロンに出かけました。学区主催のリース作り体験にも参加しました。

<防災避難訓練>

- ・火災を想定した避難訓練を2回実施しました。また、訓練時には、消火器訓練と火災通報装置を使用した通報訓練も行いました。
- ・BCP（事業継続計画）を作成しました。

<家族との関係>

- ・1カ月に1度のお便りを発送し、様子をお知らせしました。お便りに同封している日々の様子のわかる写真も増やす工夫をしました。
- ・体調に変化が見られた時は、ただちに連絡しました。
- ・運営推進会議は、6回実施しました。ご家族から、会議のコメントとは別にスタッフに向けてのお便りを頂戴することもありました。

<スタッフミーティング・あんばいいいんかい>

- ・ケアについての意見交換や課題の検討を行い、暮らしの質の向上に努めました。虐待や身体拘束の視点からもケアについての検討を重ねました。
- ・個別のカンファレンスを実施しました。短期・長期プランは意見を出し合い作成しました。
- ・医療面でも看護師の出席を得て充実を図りました。
- ・運営やリスクマネジメントについての協議を行いました。
- ・さらにに関する情報の共有も行いました。

<運営会議>

- ・昨年度から始まったグループ会議の日程にあわせて、理事長、法人事務局長、事務スタッフ、管理者・常勤スタッフおよび看護スタッフが出席しました。
- ・ホームの運営やスタッフの処遇、環境や備品についての協議を行いました。
- ・運営に関しての課題は、随時、法人事務局、事務スタッフ、理事、管理者等で話し合いました。

<外部評価>

- ・社会福祉士会による外部評価を受審しました。

<運営推進会議>

- ・地域密着型介護サービスの規定により、対面で年6回開催しました。
- ・参加者は、地域より自治会・民生委員・湖南省地域包括支援センター職員・元ボランティアグループのメンバー、ご家族・理事長・理事・法人事務局・管理者・スタッフでした。
- ・運営の状況やお年寄りの様子・地域との関わりを細かく報告することで様々なご意見をいただき、運営の参考としました。

<虐待防止委員会>

- ・定期的開催される法人内の委員会に出席しました。委員より、身体拘束・虐待に関する研修を受講しました。ホーム内での課題を話し合う機会がありました。
- ・近隣の他事業所の虐待防止委員会に委員として出席し、情報交換を行いました。
- ・認知症介護基礎研修をスタッフ6名が受講しました。
- ・介護支援専門員更新研修を受講しました。

<研修の実施>

- ・集団指導に参加し、高齢者虐待に関する研修を受講しました。

- ・抱え上げない介護の研修会に参加しました。
- ・湖南省介護保険事業者協議会（ほほえみネットこなん）に役員として関わりました。

<障がい者の就労支援>

- ・引き続き環境整備やケアに携わるスタッフの就労支援を行いました。安定した就労となるようにグループホームの世話人と連携を図りました。
- ・週に2回、もえるゴミのゴミ出しに関わるスタッフ（ホーム住人さん）の支援を行いました。

<見学・実習・研修の受入>

- ・湖南省の事業による介護事業所の見学・体験の実習先として1名を受け入れました。

<介護相談員の受け入れ>

- ・湖南省から月に一度の訪問を受け入れました。行事と重なる日の訪問もあり、お年寄りのさまざまな表情や反応を見ていただくことができました。

<行事等>

- ・イベント担当スタッフが中心となり、季節に応じたイベントを開催しました。
- ・イベントやお誕生日会には特別メニューの食事を用意しました。
- ・季節を感じる展示物をお年寄りと一緒に作りました。

<関連事業>

- ・隣接する障がい者グループホーム「きらく」の運営に携わりました。支援方法や情報の共有に努め、「わいわい」の状況に合わせながら連携しました。3月31日での入居者は、障がいのある方3名でした。

② 障がい者グループホーム（きらく）運営事業		
内容	障がい者グループホームの運営	
<実施場所>	湖南省石部東七丁目3番20号	
<実施日時>	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	
<経常収益>	1,103万円 <経常経費> 676万円 <損益> 426万円	

<2024年度重点目標>

住人さん同士のトラブルや体調の変化に早めに気づき対応するとともに、個々の意思を尊重し、可能な限り住人さんが望む暮らしを大切にしながら、暮らし支え合いの取り組みを広めます。

<目標に対する評価>

コミュニケーションを取ることが難しい方の想いを汲み取り、住人さん同士が快適に過ごしていただけるようにサポートしました。

毎日の血圧測定や聞き取りを通じて、体調の変化に気づき、受診へと繋げました。
突発的な歯や腰の痛みに対応し、受診をサポートしました。
体調面に不安があっても、持病と付き合いながら楽しめることに支援を行いました

<事業の目的>

地域の中でそれぞれが望む生活ができるように、複数人の支援スタッフにより住人さんの生活を支援しました。

<支援の方針>

日々の暮らしをさりげなく支え、住人さんの望むその人らしい、自立した生活の支援を行いました。また、その支援に必要な専門性の発揮は「さりげなく、いざというときは専門性を活かす」という姿勢で、住人さんの尊厳の確保と人権の尊重に努めました。

<ホームの概要>

2019年4月、高齢者グループホーム「わいわい」に隣接する旧医師住宅を市から譲り受け、支援や介護を必要とする高齢者向けの有料老人ホームと障がい者向けのグループホームとを一体的に運営する「多世代共生型ホーム」として改修整備しました。整備にあたっては、公益財団法人ダイトロン福祉財団による助成金を活用させていただきました。

居室は、有料老人ホームとして1階1室、障がい者グループホームとして1階1室と2階2室の計4室でスタートしましたが、有料老人ホームとしての居室については、1名様の利用終了後に問い合わせがあるものの利用までには至りませんでした。この状況を踏まえ、2023年1月30日から全室を障がい者グループホームの居室として利用できるように変更しました。

<生活の支援>

支援スタッフは、専任スタッフ2名の他、隣接の高齢者グループホームのスタッフが兼務し、毎日の食事提供、居室の掃除、衣服の管理、衣服の着脱や身だしなみへの援助、建物の点検、その他生活全般に渡っての相談・援助を行ないました。

就労先での様子や変化を連携して見守るため、就労支援事業所やご家族と連絡を取り合いながら総体的に支援しました。就労先の変更やデイサービスの曜日変更などありましたが特に混乱なくスムーズに移行できました。

<余暇の支援>

地域行事、近隣の福祉施設でのイベントなどの案内を行ないました。

住人さんそれぞれの趣味（ツーリング、カラオケ、ボランティア、お買い物など）の活動の中で一人ひとりがリフレッシュ出来ることを念頭に、交通手段や目的などの相談に乗り、安全に外出できるよう支援しました。また、住人さん同士の交流をはかるためカラオケ発表会の応援にも行きました。還暦を迎えた住人さんとは一緒に外食をする機会も作りました。住人さんとの交流が苦手な住人さんにはご家族さんが会いに来られた時にお墓参りと外食を楽しまれるという時間を持っていただきました。

住人さんの発案で、グループホームわいわいに入居されているお年寄りの皆さん、ス

タッフ、スタッフの子どもと一緒に花火を楽しみました。

<健康管理>

高齢者グループホーム「わいわい」の看護師による健康状態の把握やアドバイス、受診指導、健康相談などを、定期的に行ないました。

医療に関しては、世話人が定期通院や不調時の通院を支援し、訪問看護サービスを利用されている場合は、情報を共有しながら日常的な服薬や外用薬の管理を支援しました。予防的観点から、歯磨きの声掛けや歯科医院への定期受診を支援しました。また、身体を清潔に保つことが健康維持に大きく関与することを念頭において、入浴や洗濯などがおろそかにならないよう働きかけました。

入院や退院のサポートを行い、医療面でホームでの自立した暮らしが困難になってきた住人さんには関係機関に相談し、住人さんにとって相應しい環境での暮らしを求めているよう働きかけました。

感染症対策も随時見直しながら行っていくなかで、高齢者グループホームのスタッフの兼務ができないときは専任スタッフが中心となり住人さんの支援を行いました。

<個別支援計画>

サービス管理責任者の統括のもと、年に2回（前期・後期）世話人や担当理事と連携して個別支援計画を作成し、定期的にモニタリングを行いました。

また、個別支援計画に沿った適切な支援を行なったかどうか自己評価を行ない、サービスの質の向上に努めました。

住人さんの年齢や希望する生活スタイルに応じて就労や健康状態などに課題が生じた場合には、一人ひとりに寄り添い、自己選択・自己決定を重視した丁寧な支援を心がけました。

<研修>

支援スタッフは、法人内研修「虐待防止と日頃の支援を考える」を受講しました。

<運営の支援>

支援スタッフ、サービス管理責任者、管理者、法人事務局および事長による「サポート会議」を月1回行いました。また、「ホーム長会議」や「グループ会議」に参加しました。

<リスク管理>

緊急連絡網を作成し、非常事態における生命・財産の保護の仕組みを整えるようにしました。避難訓練は実施できませんでしたが、グループホームわいわいの避難訓練後に水消火器を使用した訓練に参加したり、また会議の場でホームに設置している消火器の場所や、出火を発見した時の住人さんの行動や役割（グループホームわいわいに連絡する）などを確認する機会を持ちました。

BCP（事業継続計画）を作成しました。

<地域との交流>

図書館で本を借りることや、ボランティアに定期的に参加する住人さんもおられました。

③ 障がい者グループホーム「南花（さざんか）」運営事業	
<内容>	障がい者グループホームの運営
<実施場所>	湖南市石部南五丁目4番4号
<実施日時>	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日
<決算状況>	経常収益 4,307万円 経常経費 3,566万円 損益 741万円



<2024 年度重点目標>

住人さんが安心して生活できるよう不安な思いや体調の変化に早期に気づき、各々の住人さんへの目配り、気配り、心配りを基本に支援を行います。

<事業の目的>

地域の中での普通の、その人らしい暮らしを実現するために、住人さんの生活を支援することを目的とします。

<支援の方針>

”普通の暮らしをさりげなく支える”という考え方で、住人さんのその人らしい、生活を支援しました。住人さんたちが、やすらぐことができ、くつろげる「ホーム」を目指しました。

また、その支援に必要な専門性の発揮は、「さりげなく、いざとなったら、とっておきの専門性で」という姿勢で臨み、住人さんの尊厳の確保と人権の尊重に努めました。

ホームで日中サービスを提供する必要がある住人さんの受け入れを積極的に行いました。

<ホームの概要>

2007 年 4 月から運営を始めた「南花（さざんか）」は、新築の平屋建て（一部 2 階）で、バリアフリーでエコスタイルの快適性を高めた住環境です。「南花棟」の居室は、ミニキッチン付き、畳とフローリングの両仕様の個室で、男性 4 名・女性 3 名が住んでいます。日中の就労先は、一般就労 1 名、福祉的就労 3 名でその他 2 名（介護サービス系）となっており、就労先との連絡を円滑に取り合っています。

隣接する「わいわい市民農園」の作業に来られる方々との交流も積極的に行い、地域の方々との交流を大切にしています。配食をベースとする食事づくり、ホーム内の清掃、衣服の管理、着衣の援助、空調の管理、買い物支援（同行）、通院サポートやリフト付きの浴室での入浴介助をはじめ生活全般に渡っての相談・支援（見守り）をしています。支援体制は、24 時間対応とし昼間（9 時～21 時）の時間帯は、シフト制により常時 1～2 名の世話人が対応し、夜間（21 時～翌 9 時）は、常時 1 名の夜勤者を配置し、「ひまわり棟」配置の夜勤者と連携して支援に当たりました。

「ひまわり棟」は、「南花棟」の東側に隣接する市民農園の一画に建築し、2018 年 1 月に竣工、4 月に開所しました。女性 2 名が生活しており、日中の就労先は一般就労

1 名、福祉的就労 1 名です。1 階南側は、一人暮らしタイプの設備が整えてられ、玄関も独立しています。1 階北側は、「日中サービス支援型」としての「短期入所」機能を有しており月 1～2 名の利用があります。2 階にはシェアルームタイプの居室と設備が整えられていますが、現在は 1 名が入居しています。緊急時の避難が円滑にできるよう、屋外避難階段を整備しています。

一人暮らしタイプに入居する住人さんには、隣接の南花で食事を提供し、シェアルームタイプに入居する住人さんは自炊され必要に応じてサポートしました。ホーム内の清掃、衣服の管理、衣服の着脱や身だしなみへの援助、空調の管理、買い物支援（同行）、通院サポート、就労先との連携など、生活全般に渡っての相談・支援（見守り）を世話人が行いました。早朝夜間のケアは複数の夜勤者により見守り・声かけを行いました。

<福祉避難所>

災害時における福祉避難所の開設及び運営に関する協定を湖南市と締結しています。災害が発生した場合、専門性の高いサービスを必要とする人達の避難場所の提供と生活支援を提供しますが、今年度の利用はありませんでした。

<余暇の支援>

「あったかほーむ」を利用した余暇支援活動やスペシャルオリンピックスなどへの参加を支援しました。また、一人ひとりの願いや気持ちに寄り添う外出サポートを行い、その人らしく、リラックスやリフレッシュできる余暇を過ごせるように努めました。地域からの情報を積極的にお知らせするなど、参加の選択肢を広げ、余暇の充実を図りました。

住人さんの状況に応じて内容や日程に配慮し、日帰り等の個人旅行（外出）を計画し支援しました。全員での外出が難しいため、ホームでお弁当を用意しての食事会やレクレーション大会、季節を感じながら近くを散歩したりドライブに行ったりしました。

<健康管理>

日々の生活において、住人さんの健康状態に留意し、適切な服薬や通院のサポートを行いました。必要な場合には付添を行い、本人の状態を伝え医師からの説明を聞き対応しました。看護師による定期的な健康状態のチェックやアドバイス、受診の指導、健康相談も行いました。

高齢化が進んでいるホームのため、介護サービスを利用している方もおられます。高齢化に伴う身体的・精神的な変化に対応しケアマネージャーや介護サービス事業者、訪問看護事業者との連携を取り、少しでも安定した穏やかな生活を過ごしていただけるよう努めました。必要に応じて医療機関とも連携し、夜間の救急対応や入院手続き等も行いました。衰えの進んできている住人さんについては、日々の状態を注意深く見守り、ご家族と相談しながら介護サービスへの移行を模索しています。

感染防止対策として、住人さんの健康状態を日々確認し、手洗い・うがい・マスク着用等の声かけを行いました。

<個別支援計画>

サービス管理責任者が年2回（前期・後期）世話人との連携により住人さんの個別支

援計画を作成し、モニタリング（実施の評価）の実施など、定期的に一人ひとりに寄り添う支援計画を見直すなど支援サービスの質の向上に努めました。「個別支援計画」に沿った適切な支援を行なったかどうか、自己評価を行ないました。

衰えが進んだから、認知症が進行しているからだけで第一線を退くのではなく、その人でこそその働き「ならではの働き」を大切にしたい支援を進めました。

<研修>

障がいのある人たちの地域生活支援に関連した研修を世話人が受講しました。特に加齢に伴う個別援助のあり方や虐待防止等についての研修を重点的に受けました。

また、法人が主催する年数回の指定研修に参加します。さらに、「地域づくり」「街づくり」などの視点を持った、関係機関・団体が実施する研修にも積極的に参加しました。

<運営の支援>

住人さんの状況を共有・理解するための「世話人会議」と住人さん、世話人、サービス管理責任者、法人事務局等による「サポート会議」を月1回行ないました。また、法人内のグループ化に伴う「グループ会議」や2ヶ月に1回のホーム長会議に参加しました。

必要に応じて臨時・緊急会議を課題・議題別に構成員を決定して行いました。

日常的にスタッフ同士で課題等に意見を出し合い、迅速に対応できるようにしました。

<リスク管理>

非常事態における生命・財産の保護に備え、支援のしくみを整えていきました。日常の健康管理にあわせて、防災の専門家を招へいすると共に、非常事態に備えて避難訓練を行いました。今年度は地域の人と一緒に消火栓の場所の確認、使い方を体験しました。

<南花の継続的な支援目標>

1. ホーム生活の住環境を整備すると共に、健康管理に努める。
2. 住人さんそれぞれの楽しみを充実できるような支援に努める。
3. 住人さん同士のつながりを強められるような支援に努める。

④ 障がい者グループホーム「ホワイトハウス」運営事業			
<内容>	障がい者グループホームの運営		
<実施場所>	湖南省石部南六丁目9番29号		
<実施日時>	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日		
<決算状況>	経常利益 2,039万円	経常経費 1,940万円	損益 99万円



<2024 年度重点目標>

住人さんの変化に留意し、本人が望む暮らしを大切にします。住人さんの「できる力」を奪わず、互いに助け合いができる楽しい暮らしを目指します。

＜事業の目的＞

地域の中での普通の、その人らしい暮らしを実現するために、4名の世話人（4名の世話人のシフト制・生活支援員を兼ねる）と宿直者・夜間支援者（巡回・宿直）によって、住人さんの生活を支援することを目的としました。

＜支援の方針＞

”普通の暮らしをさりげなく支える”という考え方で、住人さんたちのその人らしい生活を支援しました。住人さんたちが、自然とやすらぐことができ、温かな雰囲気の中で、くつろぐ事ができるホームを目指せるよう、心がけました。

また、その支援に必要な専門性の発揮は、「さりげなく、いざとなったら、とっておきの専門性で」という姿勢で臨み、住人さんの尊厳の確保と人権の尊重に努めました。

＜ホームの概要＞

2004年3月から運営を始めた「ホワイトハウス」は、当法人が初めて街なかで土地を購入し建てた住宅で、新築2階建のバリアフリーの快適な住環境を提供しています。居室は、個室で、男性3名・女性4名が居住され、日中の活動・就労先は、福祉的就労6名、その他（デイサービス等）1名でした。

＜生活の支援＞

食事づくり、ホーム内の清掃、衣服・服薬の確認・管理、着衣の援助、買い物支援（同行）、通院サポートなど、生活全般に渡っての相談・支援（見守り）を行ないました。また、夜間のケアについては、法人関係者や地域のスタッフによる宿直によって対応しました。更に、法人全体の夜間支援従事者（POTスタッフ）による巡回型早朝・夜間支援により、就寝前・出勤前の見守り・援助を行いました。就労については、就労先事業所との連絡・連携を図り、就労が安定・継続できるよう努めました。

他機関との連携の一つとして体験入居を受け入れていますが、今年度の体験入居の受け入れはありませんでした。日常的支援として世話人、理事、法人関係者との連携を強め、課題に対して迅速に対応できるよう取り組みました。

＜福祉避難所＞

災害時における福祉避難所の開設及び運営に関する協定を湖南省と締結しており、災害が発生した場合、専門性の高いサービスを必要とする人達の避難場所・支援の提供の見直しをし、迅速に対応できるように取り組みました。

＜余暇の支援＞

大人数での外出を控え、少人数での外出・ホーム内でお楽しみ会を実施しました。マスク着用はもちろん、手指の消毒を徹底し、楽しく余暇を行うことができました。

＜健康管理＞

日々の暮らしの中においては、病院の同行、服薬確認等、住人さん一人ひとりの健康状態に留意しました。

通院については、医師からの説明や本人の状態を伝えるなど、病状を正確に把握する

為、付添を行いました。また、看護師の巡回により健康状態の把握、健康管理のアドバイス、受診指導、健康相談などを定期的に行ないました。更に、医療面での課題のある住人の個別的な健康管理、医療機関・就労先との連絡、受診の支援等を行いました。

住人さんのお一人が指定難病にかかり、外科的手術を受けられ、その後も劇的な身体の変化がありましたが、本人に寄り添う支援を心がけました。特に、加齢化に伴う身体的・精神的な変化に対応できる支援の充実に努めました。

<個別支援計画>

サービス管理責任者により、年2回（前期・後期）、世話人との連携により住人さんの個別支援計画を作成し、モニタリング（実施の評価）の実施など、定期的に一人ひとりに寄り添う支援計画を見直すなど支援サービスの質の向上に努めました。

個別支援計画に沿った、適切な支援を行なったかどうか、自己評価を行ないました。

<研修>

法人が主催する研修、関係機関・団体が実施する研修に参加することができなかったのですが、研修内容を動画で視聴しました。次年度は、積極的に参加できるよう努めます。

<運営の支援>

住人さん、世話人、サービス管理責任者、法人事務局、法人関係者による「サポート会議」を月1回行ないました。また、日々、住人さんの体の変化や日常の様子など、世話人間の共通理解を図り、ホームの円滑な運営に努めました。

NPOのホーム全体での「ホーム長会議」や「グループ会議」に参加し、必要に応じて臨時・緊急会議を課題・議題別に構成員を決定して開催しました。

様々な立場で関わりを持っていただく方々との積極的な意見交換を実施し、課題について検討することにより、質の高いサービス提供する事ができました。

<リスク管理>

非常事態における生命・財産の保護に備え、支援のしくみや避難確保計画の見直しを実施しました。日常の健康管理にあわせて、非常事態に備えて避難訓練を行い、災害（火災・地震・洪水等）に対する意識を高めることができました。次年度も引き続き、災害に対する意識を高められるよう努める必要があります。

<地域との連携>

自治会活動や行事に積極的に参加し、地域の方々との交流を促進することができました。

⑤ 障がい者グループホーム「Myほーむ」の運営事業

<内容> 障がい者グループホームの運営

<実施場所> 湖南省石部南五丁目5番36号

<実施時期> 2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

<決算状況> 経常収益 1,936万円 経常経費 1,905万円 損益 31万円



＜2024 年度重点目標＞

個性を大切にそれぞれの暮らしの中でスモールステップを実現します

（生活の中に小さな目標を持ち実現することで達成感を感じて自信が持てるように）

＜事業目的＞

地域の中でその人らしい暮らしを実現するために、3 名の世話人と生活支援有償ボランティアスタッフ 1 名、余暇支援などの部分的スタッフ 1 名によって住人さんの生活を支援します。

＜支援の方針＞

日々の暮らしの中でそれぞれの目標をたて、さりげなく見守り、支え、安心と温かみのあるホームをめざします。

＜ホームの概要＞

2014 年度に用地を取得し、My ほーむを建設。2015 年 4 月から順次入居が始まりました。完全なワンルームタイプの部屋 5 室と従来型の共同タイプ 5 室、合わせて 10 室のグループホームです。

本年度 7 月に県外での一般就労が決まり 20 代 1 名が退居され、以前より体験を重ねておられた 30 代 1 名の方が 10 月より正式入居されました。現在 20 代から 50 代の男性 7 名の方が生活されています。

また、入居 5 年目の方は B 型作業所から一般就労へチャレンジされ、3 度の実習とトライアル雇用を経て、2 月より本採用が決まりました。現在一般就労 3 名、福祉的就労 4 名です。

＜生活の支援＞

My ほーむは一人ひとりの自主性を尊重し、衣食住をもって住人さんの心の安定を大切にしています。

衣：衣服の管理、身だしなみ、買い物付添

食：年齢に合った食事の量、健康バランスの良い食事、季節や行事を感じる食事

住：安心して帰宅、自室を清潔に保つ、ホーム内の清潔保持、買い物支援

など、住人さんが安心して笑顔で生活できるよう心掛けました。

また、就労先と連携して本人の様子や変化を話し合い、生活の安定と就労意欲が繋がるように努めました。

＜余暇の支援＞

地域の行事、近隣の福祉施設でのイベントなどの案内を行いました。

住人さんのニーズや提案に答え、ホーム全員でのイベント（新年会外食やボーリング大会など）やグループに分かれての外出の計画や買い物を支援しました。

スポーツに興味がある方は滋賀県スポーツ協会、スペシャルオリンピックスへの参加、びわこ学園野球同好会のナイター練習への参加などを続け、住人さんそれぞれが外部の方との繋がりも増えてきました。

公共交通機関を使っでの参加に挑戦をされたり、移動支援を利用されたりと一人ひとりのスモールステップに向けてさまざまな支援に努めました。

また、帰省ができる方が少なくなる中、ご家族と年に数回の食事外出の場を設け、ご家族との時間を大切に感じています。

〈健康管理〉

日々の暮らしの中において住人さんの健康状態に気づける様努めました。

通院については、体調不良時、医師からの説明を聞かなければならない場合や本人の状態を伝えなければない場合は法人の看護師と相談をして付添を行いました。

本年度も単発的にコロナやインフルエンザ、胃腸風邪が出ましたが、ホーム内での感染に気を付けて対処できました。

看護師の巡回により健康状態の把握、健康管理のアドバイス、受診指導、健康相談などを月に一度行いました。

〈個別支援計画〉

サービス管理責任者が年2回（前期・後期）個別支援計画を作成し、定期的にモニタリングを行いました。

また「個別支援計画」に沿った適切な支援を行なえているかどうか3月と8月に世話人会議を行いました。住人さんの年齢、希望する生活などに応じてそれぞれが抱えている課題を丁寧に支援できるよう情報共有が必要な時に話し合うことができました

〈研修〉

住人さん一人ひとりに対してより適切な支援が行えるように、住人さんが持つ強迫性障害についてあぼし山診療所の本谷先生を招き、障がい特性の理解や支援に必要な専門的知識を学ぶ勉強会を実施しました。ホーム関係者、住人さんに関わる作業所の職員さんの参加があり、今後の支援を話し合い、共有することができました。

また 12 月に行われた虐待防止研修へスタッフ 1 名が参加し、世話人会議で日々の対応を見直しました。

〈運営について〉

世話人、サービス管理責任者、法人事務局等による「サポート会議」を月 1 回行いました。

また、法人内のグループ化に伴う「グループ会議」や「ホーム長会議」に参加し、必要に応じて臨時・緊急の会議を課題別に行いました。

〈リスク管理〉

災害時に何が必要かを住人さんと考え、各ホームに備えられたポータブル電源の使用方法を確認したり、食料品の備蓄、日用品の備蓄を一緒に買いに行き非常事態に備えています。

⑥ あったかほーむいしべ宿運営事業	
＜内容＞	くらし支え合い・地域共生型拠点の運営
＜実施場所＞	湖南省石部東二丁目1-36
＜実施日時＞	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日
＜事業の対象者＞	学童、乳幼児、地域生活を行う障がい者・児、在宅要支援高齢者
＜決算状況＞	経常収益 1,650万円 経常費用 2,042万円 損益▲392万円

＜2024 年度 重点目標＞

- ・安心・安全に過ごせる環境作りに努めます。
- ・利用者、保護者、スタッフ間の共通理解を図ります。
- ・将来展望を念頭においた新体制の検討をおこないます。

＜事業の利用者＞

乳幼児、学童児、地域で生活する障がい児・者(日中一時支援、グループホーム住人)

＜利用状況＞

(乳幼児の一時預かり、学童保育および障がい児・者の余暇支援)

- ・幼児：一時預かりとして1名の利用。
- ・学童：8名の利用。
- ・障がい児・者の余暇支援：グループホーム住人5名の利用。
- ・日中一時支援：甲賀市10名、湖南省29名、栗東市2名で計41名の利用。

＜取り組み＞

～ボランティアさんの活動～

- ・グループホーム住人さんに、あったかほーむいしべ宿での有償ボランティア活動（環境整備、感染防止対策業務等）をお願いしました（3名 土曜、祝日）。

～防災に関する取り組み～

- ・地震、火事を想定した避難訓練を実施しました。
7月以外、毎月実施。7月は利用児童のキャンセルが多かったため未実施。
- ・新型コロナウイルス感染症が第5類となされてからも、インフルエンザ等も含む感染症防止対策として、支援スタッフ・ボランティア・利用者の健康観察、食事時のアクリル板設置、利用場所の換気等に留意しました。

～研修～

以下の研修に参加しました。当事業所主催の研修は2024年度に立案しましたが、実施は年度をまたいでの2025年4月となりました。

- ・糸賀一雄生誕110年記念講演会
2024年10月26日。湖南省甲西文化ホール 2名受講
- ・虐待防止研修（法人主催）
2024年12月4日。じゅらくの里福祉パーク 6名受講
- ・発達障がい市民啓発講座
2025年2月1日。サンライフ甲西 3名受講

- ・共生社会フォーラム2024
2025年2月7日。大津プリンスホテル 2名受講

<地域とのかかわり>

- ・“湖南省秋まつり2024”に参加し、かごかきレースを運営しました。
(11月23日)
- ・こなんイモ夢づくり協議会に苗を提供していただき、グループホームころんの畑で芋の空中栽培をしました。
- ・NPO法人レイカディアえにしの会に紙芝居とバルーンアート等を依頼しました。
(2025年1月6日 3月25日) また、湖南省ボランティアセンターに依頼しマジックボランティアの方によるマジックショーを開催しました。
(7月27日 8月24日)

<会議>

- ・スタッフ会議
毎月1回実施しました。(学校の長期休み期間中の8月は開催できず)
- ・運営会議
1ヶ月に1回実施し、湖南省社会福祉協議会関係者、事務局、管理者、サービス実施責任者、事務主任、あったかほーむつぼみ園長が出席しました。
- ・2グループ会議
2カ月に1回開催し理事長、事務局、グループ長、副グループ長、あったかほーむつぼみ園長、事務主任が出席しました。

<広報・見学>

- ・あったか便りを発行しました。(5月)
- ・湖南省広報にてボランティアの募集をしました。(3月、7月、12月)
- ・新規利用希望者、家族の見学を受け入れました。(3家族)

<概要>

今年度の重点目標に関する結果および課題は以下のとおりです。

“安心・安全に過ごせる環境作りに努めます”について

- ・活動のエリア分けをすることで、個々の利用者の人間関係に配慮した支援の提供、および課題への対応ができました。個別対応が必要な利用者が増えていることや、個々の利用者に応じた支援を提供するためにも、スタッフの研修を継続していきたいと考えています。
- ・夏場の暑さ対策としてシェードを玄関に設置するとともに、玄関前のスロープや階段玄関内に敷物をして滑らないような配慮をしました。また、下駄箱付近に手すりを設置し安全面に配慮しました。

“利用者、保護者、スタッフ間の共通理解を図ります”について

- ・利用者さんが来所される前にスタッフ間の打合せをすることで、支援の確認や支援をするうえで必要な情報を共有することができました。
- ・利用者さんへの言葉かけの際に肯定的な表現にすることや、内容、タイミング

等に留意しました。まだ充分でない部分もあることから、スタッフ会議等での支援の振り返りや研修を実施するなかで、利用者さんが「また来たい。」と思える事業所にしていきたいと思います。

- ・連絡帳や、ご家族が事業所へ迎えに来られる際に話した事柄が、利用者さんの支援にフィードバック出来ていました。一方でご家族への説明が言葉足らずであったり、利用者さんの様子を十分に伝えられなかったために、苦情を受けることがありました。ご家族からのご指摘を真摯に受け止め、より良い支援をしていくための糧としていきたいと考えています。また、事業所玄関に設置している“ご意見箱”の活用についても検討していきたいと考えています。

“将来展望を念頭においた新体制の検討をおこないます”について

- ・あったか保育室つぼみの将来展望についても勘案しながら、グループ会において検討をしてきました。まだ検討を始めたところであり、継続した協議が必要な段階です。
2023年度にグループホームころんの運営を開始した際の目的の一つが、あったかほーむいしべ宿を利用される方の、幼少期から成人までのトータルな支援を提供することでもあり、このコンセプトを根底にしながら協議を重ねていきたいと考えています。

⑦ 障がい者グループホーム（ころん）運営事業		
＜内容＞	障がい者グループホームの運営	
＜実施場所＞	湖南省石部南八丁目1番24号ヴィラ瑞穂	
＜実施日時＞	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	
＜決算状況＞	経常収益 632万円 経常費用 702万円 損益 ▲70万円	

＜ホームの概要＞

- ・あったかほーむいしべ宿を利用される方の、幼少期から成人までのトータルな支援を提供する手がかりを得ると同時に経営改善のため、2023年度6月より新たな業務として、グループホームころんの運営を開始しました。民間の賃貸住宅ヴィラ瑞穂の2室、4名定員となっており、1室はご夫婦で生活、もう1室は1名の方が生活されています。日中の就労先は2名が一般就労、1名が福祉的就労となっています。
- ・法人内の別ホームにお住まいの方1名が体験利用されました。

＜生活の支援＞

- ・ご夫婦で生活されている住人さんについては、支援が必要な事柄は自分達で発信してもらうことを基本にしながら、ご夫婦間での生活リズムを尊重してきました。

奥さんの方は、体調不良と精神面での不安定さから約1ヶ月仕事を休まれることがありました。会社での面談や通院を継続するなどの支援でそれ以降は心身ともに大きな不調の訴えはありませんが、奥さんが1人で好きなことをする時間や、ご主人が同行せずに出る時間の必要性を感じました。ご主人の理解と協力を得ながら、奥さんがストレスを発散できる時間が持てるよう助言していきたいと考えています。

- ・一人で生活されている住人さんの食事については宅配を利用しつつ、希望に応じて調理支援を行いました。少しずつレパートリーが増えておられます。
小遣いに関する金銭管理は自分でされており、生活費についても1週間ごとに管理するなど、少しずつ出来るようになってこられました。一方で部屋の片づけや歯磨きなどの身の回りのことについては、手を抜く場面が見られます。
現状の支援についても見直していきたいと思います。

<余暇の支援>

- ・ご夫婦で生活されている住人さんもおられることから、今年度も余暇支援は主に一人ひとりの希望に添った形で実施し、ホーム全体としての活動はバーベキューと新年会を行いました。また、初めてのホーム旅行として、5月に長島スパーランドへの一泊旅行を、11月にUSJへの日帰り旅行をしました。
- ・ご夫婦で生活されている住人さんは自分達で余暇を過ごしておられますが、ホテルでの食事等あまり経験されたことない活動に対してはサポートを要望されました。来年度の秋に退職予定のご主人については、退職後の余暇として趣味を持つことも助言したいと思います。
- ・一人で生活されている住人さんは、電車やバス等の公共交通機関を利用して出掛けることを経験されるなど、余暇活動の幅が広がってこられました。公共交通機関を利用する機会を重ね、一人で外出できるよう支援したいと考えています。

<健康管理>

- ・日々の生活の中では、看護師による月1回の健康相談による健康管理、および世話人が住人さんの健康状態に留意しました。同時に住人さん自らが自分の健康の良し悪しに気づき、不調がある時は世話人等に発信されています。
- ・ご夫婦で生活されている住人さんは、年齢を重ねてこられ持病もあることから食事面での助言も必要になってきました。助言がストレスにならないよう配慮しながら、健康的に生活できる食事量や内容等について伝えていきたいと考えています。
- ・一人で生活されている住人さんは時々、発熱等で体調をくずされることがありました。部屋の換気や冬場の加湿など、健康な体づくりについても助言したいと思います。

<個別支援計画>

- ・サービス管理責任者の総括のもと、年2回（前期・後期）管理者により住人さんの個別支援計画の作成および、モニタリング（実施の評価）を実施しました。一人ひとりに寄り添う支援計画を見直すことで、支援サービスの質の向上に努めました。
- ・住人さんの年齢幅が大きいことや、生活スタイルの違い等がありますので、それぞれのニーズや課題とされることに応じた支援ができるよう計画し、実施していくことが引き続いての課題です。

<運営の支援>

- ・住人さん、世話人、生活支援員、法人事務局等による「サポート会議」を月1回行

ないました。住人さんから話し合いたいことを提案されることもあり、自主性を尊重していきたいと思います。また、住人さんの体の変化や日常の様子などについては、情報共有を密にしながら世話人間の共通理解を図りました。

- あったか、つぼみの運営会議およびホーム長会議に参加し、情報の共有と意見交換をしました。
- 住人さんの生活に対する満足度や、適切な支援が提供できているか等についての第三者による客観的な評価はできていません。第三者評価委員による正式な評価実施の前段階として、住人さんと法人外部の方（世話人や法人スタッフ以外の、住人さんと利害関係のない方）が話をする機会が持てるよう検討していきたいと考えています。

<リスク管理>

- 災害時の食料品や生活物品の備蓄については、1人1個ずつ市販の防災リュックを購入し、年に1～2回リュックの中身の点検や使い方の確認をしました。ご夫婦で生活されている住人さんは自分達で非常用の食料品を用意される等、災害時の備えについても意識されています。住人さん自らが災害時に自分自身の安全を確保し行動できるよう、今後も避難訓練等を実施していきたいと考えています。

⑧あったか保育室つぼみ 運営事業		
＜内容＞	市の認可を受けた子ども、子育て支援法による「地域型保育給付」の対象となる地域型保育事業の一つとして、地域に密着した小規模な保育を担います。	
＜実施場所＞	湖南省市石部東7丁目3番18号	
＜事業の対象者＞	地域型給付費等支給認定者 0歳～2歳の乳幼児 10名定員	
＜決算状況＞	経常収益 3,096万円 経常経費2,698万円 損益 398万円	

<2024 年度 重点目標>

- 子どもの視線を受け止め、心情を理解しようとし、子どもの心を大切にする言葉かけをします。
- 小規模保育室として、子ども、保護者およびスタッフ同士の信頼関係がしっかりと築けるよう、より一層の情報共有の強化に努めます。

<事業の内容>

0歳児から2歳児（定員5名）の家庭的保育室から、定員10名の「小規模保育園」として4月に開園しました。また、地域の方との交流の場、および活動を提供しました。

<取り組み>

- 子どもの「環境安全対策」として、保育室周辺の植木を伐採し、フェンスで囲うこと

により、害虫対策や、防犯対策に努めました。

また、コンクリートや砂地になっている地面は、人工芝を敷き詰めることで、転倒などの「事故防止対策」に努めました。

- ・異年齢の子ども達が共に生活する場として、それぞれが自由に活動できるよう、部屋の仕切りを取り払い、事故防止対策に努めました。
- ・「感染予防対策」として、保護者へ感染予防対策についての案内、子ども、スタッフの検温、換気等の対応を行いました。
- ・「災害時の避難と心得」として、避難訓練（地震・不審者・火事・水害）を毎月1回行いました。
- ・子ども達にとって、より良い食事が提供できるよう、栄養士による給食、おやつの献立メニューの作成と提供に努めました。

<行事・地域との関わり>

保育所地域活動事業を実施しました

- ・つぼみ農園お芋ほり 11月17日
- ・給食参観 8月23日
- ・卒園、進級式 3月31日
- ・音楽会（ボランティアさんとの交流会） 毎月1回

- ・湖南省保育園長会議出席
- ・保護者との個別懇談会 5月20日～24日
- ・空中栽培のサツマイモを植えました

<会議>

- ・「いしべ宿・つぼみ運営会議」 毎月1回
- ・「第2グループ会議」 事業運営上の課題、経営状況の共有、課題に向けての協議

<広報>

- ・「つぼみだより」 毎月1回
- ・「給食だより」 毎月1回
- ・「つぼみ通信」 法人ホームページ掲載 毎月1回

<研修>

- ・キャリアアップ研修（県）
 - ① 障がい児保育
 - ② 乳児保育
 - ③ 食育・アレルギー対応
 - ④ 保健衛生・安全対策
 - ⑤ マネジメント
- ・市内保育園等職員研修（市）
 - ① 食物アレルギーの基礎知識とエピペンの使い方について
 - ② 子どもの虐待防止について

- ③ 発達支援について
- ④ 心肺蘇生法と AED の使い方について
- ⑤ 子どもに関する人権について
- ⑥ 園における感染症予防について

<2024 年度を振り返って>

- ・保育に適した環境へと整えていくことで、子ども達の安全面だけでなく、スタッフ一人ひとりの保育への意識向上を図ることができました。また、保育利用児童の背景から、子育ての現状や問題を改めて知ることができ、つぼみ保育室の在り方を再確認することができた年でした。
- ・家庭的な環境と保育、そして「子育て支援」「保護者支援」に力を入れていく事という、つぼみ保育室の方向性が見えてきたと同時に、いくつかの課題もでてきました。その一つは、保護者との情報交換の手段です。対策として、2025 年 4 月の開始に向け、情報通信技術（ICT）コドモンを導入しました。
- ・つぼみ保育室として、今まで培ってきたものを大切に、保育に生かしながらも、現代社会に合わせた新しいものも取り入れ、子どもにとって、保護者にとってより良い保育を目指していこうと思います。

⑨ 障がい者グループホーム（こみち）運営事業		
<内容>	障がい者グループホームの運営	
<実施場所>	湖南省石部南一丁目1番25号	
<実施日時>	2024年3月1日 ～ 2025年3月31日	
<決算状況>	経常収益 495万円 経常経費 263万円 損益 232万円	

<2024 年度重点目標>

アパート型ホームでの暮らしにおいて、経済的な自立と心身の安定を支え、意欲向上の一步を応援します

<事業の目的>

「住まいの独立性」と「支援の個別性」が確保されたアパートを活用したホーム（アパート型ホーム）の特性を活かし、地域の中でそれぞれに合った満足のいく生活ができるように

ましろとの兼務による支援体制（4 名の世話人[常勤 1 名・非常勤 3 名]）によって生活を支援しました。

<支援の方針>

日々の暮らしをさりげなく支え、住人さんの望むその人らしい、自立した生活の支援を行い、また、その支援は「さりげなく、いざというときは専門性を活かす」という姿勢で、住人さんの尊厳の確保と人権の尊重に努めました。

困り感の発信スキルを高めることを、最大の努力目標とし、必要な時には必要なだけ寄り添い、安定期は後方援護で自己成長を促すというメリハリのついた支援を意識しました。

個別の生活のため見えにくさがありますが、SNS を有効に使いつつ、毎日帰着の連絡をもらう、定期的に健康管理をするなど頻繁に連絡を取り合う中で課題や健康状態の把握を行いました。

<ホームの概要>

日本精工石部工場の向かいのマンション群にある「ハウゼ森の小径」は、以前からオーナーさんと管理会社さん（「ころん」のヴィラ瑞穂と同じ）のご理解のもと、サテライト住居として活用させていただいていました。

2024 年 3 月から 4 戸を確保し、3 室の住居と 1 室の共用スペース兼事務室兼居室として個別支援型ホーム（アパート型ホーム）を開設し、3 名が入居しました。

年度末の日中の就労先は、福祉的就労 1 名、求職中 1 名でした。

<生活の支援>

ましろとはいつの世話人が兼務し、住人さんのニーズに応じ、食事、居室の整理・清掃、衣服管理、身だしなみ、金銭管理、その他生活全般に渡っての相談・援助を行ないました。日々の変化を見逃さないよう、日中活動先やサービス管理責任者など関係者と連携しました。

<余暇の支援>

住人さんそれぞれの余暇の過ごし方を尊重し、心身ともにリフレッシュ出来るとともに、毎日の暮らしのなかで楽しみや豊かさを感じられる力を得るよう支援しました。

また、ホームの中だけの関係に留まらず、他ホームとの交流を通じて、住人さん同士の世代を超えた関わりや、たくさんの世話人と接することにより、地域の中で出会う様々な方との交流に生かされるように支援しました。

個々の趣味嗜好に応じた外出やイベントを計画し、一人での外出を応援するなど、必要に応じて付き添うことで社会性の向上を図りました。

<健康管理>

看護師の巡回による健康状態の把握やアドバイス、受診指導、健康相談などを定期的に行ないました。また、世話人が定期通院や不調時の通院を支援し、日常的な服薬や外用薬の管理を支援しました。また、身体を清潔に保つことが健康維持に大きく関与することを念頭において、入浴や洗濯などがおろそかにならないよう働きかけました。

<個別支援計画>

サービス管理責任者が年に 2 回（前期・後期）世話人等との連携により個別支援計画を作成し、定期的にモニタリングを行いました。

住人さんは、年齢や希望する生活スタイルにそれぞれ違いがあり、様々な問題や課題が生じることがありますが、その違いを尊重し、一人ひとりに寄り添い、自己選択・自己決定を重視した丁寧な支援を心がけました。

<研修>

世話人は、法人内の研修および外部研修を受講しました。

<運営の支援>

世話人、サービス管理責任者、法人事務局等による「サポート会議」を行いました。
また、法人内のグループ化に伴う「グループ会議」に参加しました。

<リスク管理>

非常事態における生命・財産の保護の仕組みを整えるよう努めました。また、緊急時に備えて定期的に避難訓練を行うことを今後の課題とします。

<サテライト化>

2025年度には、「アパート型グループホーム」から「サテライト住居」として形態を変え、引き続き、支援を受けながらの一人暮らしを希望する住人さんへのサービス提供に努めます。

⑩ 障がい者グループホーム（ましろ）運営事業		
<内容>	障がい者グループホームの運営	
<実施場所>	湖南省石部南七丁目8番5号	
<実施日時>	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	
<決算状況>	経常収益1,771万円 経常経費1,518万円 損益 253万円	

<2024 年度重点目標>

暮らしの中で生まれるさまざまな感情と丁寧に向き合います。

<事業の目的>

地域の中で、それぞれが望む生活ができるように、4名の世話人と複数人の宿直により住人さんの生活を支援しました。

<支援の方針>

住人さんの自主性や意思を尊重し、自然な形で“さりげなく”日常生活を支援しました。必要な時には専門性の高い支援を的確に提供し、住人さんの尊厳と人権を守るよう努めました。

<ホームの概要>

【開設経緯】

- ・2018年度に女性専用グループホーム用地を取得しました。
- ・2019年度に地元説明会を経て、県および市の補助を受けて施設整備しました。
- ・2020年度に国・県の補助を受けスプリンクラー設備を設置、安全性を強化しました。

【居室構成】

- ・1階：4室（うち1室は体験利用可能）
- ・2階：3室
- ・共有スペースにはリビング、キッチン、浴室を設け、快適な生活環境を提供しました。

【ホームの特徴】

- ・機能的な居室に加え、交流スペースや中庭を設け、住人同士や地域との交流を図りました。
- ・プライバシーを尊重したシンプルな設備で、経済的にも利用しやすい運営に努めました。
- ・障がい基礎年金未受給者や就労収入が少ない方にも安心して暮らせる環境を提供しました。

<生活の支援>

【日常生活のサポート】

- ・平日は、朝食と夕食を提供し、休日は、夕食を提供しました。
- ・清掃、衣類管理、身だしなみ支援および定期的な建物点検を実施しました。
- ・就労支援として、家族や事業所との連携を図りました。

【自立支援】

- ・料理や家事の役割分担を通して生活能力向上を支援しました。
- ・一人暮らしを見据えた金銭管理や買い物、家事のサポートを行いました。
- ・個別の成長や希望に合わせた柔軟な支援を展開しました。

【夜間支援】

- ・宿直スタッフが夜間見守りと緊急対応を行うことで安全を確保し、住人さんの安心を支えました。

【移行支援】

- ・一人暮らし希望者にはアパート型グループホームへの移行支援を実施しました。

<余暇の支援>

- ・個々の余暇活動を尊重し、リフレッシュできる環境を提供しました。
- ・交通手段の利用や外出支援、整理整頓や買い物支援など日常的なスキル習得を促進しました。
- ・他ホームや地域との交流を活発に行い、住人同士の世代を超えた関わりや地域との連携を推進しました。

<健康管理>

- ・看護師による定期的な健康チェックや健康相談を実施しました。
- ・世話人による通院支援や服薬管理をサポートしました。
- ・定期的な歯科健診を勧めるとともに、清潔な生活習慣の維持、感染症対策としての手洗いやワクチン接種を促進しました。

<個別支援計画>

- ・年2回、個別支援計画を作成し、モニタリングを通じて支援内容を見直しました。
- ・自己選択や自己決定を尊重し、住人さんに寄り添った支援を提供しました。
- ・自己評価を実施し、サービスの継続的な質向上に努めました。

<研修>

- ・サービス管理責任者研修を希望しましたが、受講出来ませんでした。次年度に受講し、スキルアップを図ります。

<運営の支援>

- ・世話人、サービス管理責任者などが参加する「サポート会議」を「グループ会議」と兼ねつつ開催しましたが、年度後半は、十分に開催できませんでした。
- ・法人外部との個別課題に応じた支援会議に参加し、迅速かつ円滑な支援に努めました。

<リスク管理>

- ・非常事態における生命・財産の保護の仕組みを整えるよう努めました。緊急時に備えて

定期的な避難訓練が必要ですが開催できませんでした。次年度は、開催する必要があります。

⑪ 障がい者グループホーム（はいつ）運営事業			
<内容>	障がい者グループホームの運営		
<実施場所>	湖南省石部北三丁目3番37号		
<実施日時>	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日		
<決算状況>	経常収益1,564万円	経常費用1,219万円	損益 344万円



<2024 度重点目標>

心身の安定を支え、意欲向上の一步を応援します。

<事業の目的>

「住まいの独立性」と「支援の個別性」が確保されたアパートを活用したホーム（アパート型ホーム）の特性を活かし、地域の中でそれぞれに合った満足のいく生活ができるように 2 名の世話人（常勤 1 名・非常勤 1 名）によって住人さんの生活を支援しました。

<支援の方針>

- ・住人さんが望む自立した生活を自然な形で支え、安心できる生活環境を提供しました。
- ・住人さんが困ったときにその状況を伝えるスキルを高めるため、コミュニケーション支援を行いました。
- ・日常の変化を迅速に把握するため、SNS などを活用した情報共有体制を整備しました。

<ホームの概要>

【開設経緯】

- ・2021 年 6 月に JR 石部駅近くの民間アパート（グリーンハイツ石部）を賃借し、グループホーム「はいつ」を開設しました。
- ・2024 年 3 月にはサテライト住居を追加開設し、さらなる支援体制の強化を図り

ました。

【居室構成】

- ・「はいつ」：全 6 室（居室 5 室、共用スペース兼事務室 1 室）・「サテライト」：1 室

＜生活の支援＞

- ・日常的に配食サービスを提供し、清掃や衣服管理、身だしなみ支援、金銭管理など生活全般の支援を行いました。
- ・建物管理や安全点検を定期的に行い、住人さんの日常生活を見守りました。
- ・近隣の支援機関、家族、職場等と密な連携を取り、住人さんの変化に迅速に対応しました。

＜余暇の支援＞

- ・地域行事や他ホームとの交流イベントを企画し、社会参加を促進しました。
- ・食事会や外出、ホーム旅行を企画し、住人同士の交流や社会性向上をサポートしました。

＜エンパワメント＞

- ・住人の生活や余暇の支援を通じて、「人間関係の築き方やそのあり方」を考え、実行に移す力を向上するよう支援しました。その際の配慮は、以下の点でした。
 1. 安心感と信頼の醸成
信頼できる人がいることから生まれる安心感と、他者に信頼される喜びを感じ、不安の少ない毎日を送るための支援を行いました。
 2. 自己表現と課題解決の支援
曖昧だった疑問や課題を明確にし、共に解決策を考えることで、自ら解決策を見つけ出す力を養いました。
 3. より良い生活の追求
物質的満足だけでなく、精神的に充実した「より良い生活」を追求する大切さを理解できるよう支援しました。
 4. 自律的な人生の創造
日常を充実させる中で、他者からの利益を受けるだけでなく、自らの目的を見つけ、主体的に人生を築く力をはぐくみました。
 5. 相互関係における充足感の向上
他者への配慮、他者の力を引き出す、自分の力を誰かのために役立てるという相互作用を通じて、自身の充足感を高めるよう支援しました。

＜健康管理＞

- ・看護師が定期的に健康チェックを行い、健康管理の支援や受診支援を行いました。
- ・日常の服薬管理、定期通院支援、口腔ケアを推進しました。
- ・感染症予防対策を徹底し、手洗い励行やワクチン接種を支援しました。

＜個別支援計画＞

- ・サービス管理責任者が年 2 回、世話人・管理者と共に個別支援計画を作成・評価しました。
- ・自己評価を定期的実施し、サービスの質向上を継続的に図りました。
- ・年齢や生活状況、希望に応じてきめ細かな個別支援を提供しました。

<研修>

- ・世話人は、法人内の研修および外部研修を受講しました。

<運営の支援>

- ・世話人、サービス管理責任者などが参加する「サポート会議」を「グループ会議」と兼ねつつ開催しましたが、年度後半は、十分に開催できませんでした。
- ・法人外部との個別課題に応じた支援会議に参加し、迅速かつ円滑な支援に努めました。

<リスク管理>

- ・非常事態における生命・財産の保護の仕組みを整えるよう努めました。緊急時に備えて定期的な避難訓練が必要ですが開催できませんでした。次年度は、サポート会議のテーマとするなど、開催に工夫する必要があります。

⑫障がい者グループホーム（あると）運営事業			
<内容>	障がい者グループホームの運営		
<実施場所>	湖南省石部西二丁目 1 番 5 1 号		
<実施日時>	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日		
<決算状況>	経常収益 1,102 万円	経常費用 2,256 万円	損益▲1,194 万円



<2024 年度重点目標>

アパート型ホームでの暮らしにおいて、経済的な自立と心身の安定を支え、意欲向上の一步を応援します

<事業の目的>

「住まいの独立性」と「支援の個別性」が確保されたアパート型ホームの特性を活かし、地域の中でそれぞれに合った満足のいく生活ができるように、はいつの兼務による支援体制（2 名の世話人[常勤 1 名・非常勤 1 名]）によって生活を支援しました。

<支援の方針>

- ・「住人さんが望む生活の実現」

日常生活をさりげなく支え、住人さんが希望する自立した生活を実現しました。

- ・「困り感の発信スキルの向上」

住人さんが困ったときに適切に状況を伝えられるよう支援し、必要な時は丁寧に寄り添いました。安定期には見守りを中心に行い、自己成長を後押ししました。

- ・「頻繁な情報連携」

日常生活の支援を「さりげなく」、緊急時には「専門的な支援を効果的に活用する」という方針に基づき、SNS の活用や定期的な健康チェックを通じて住人さんの状況を

的確に把握しました。

＜ホームの概要＞

【開設経緯】

- ・JR 石部駅近くで敷地を購入し新築したグループホーム「はいつ」を 2024 年 5 月に開設しました。

【入居状況】

- ・全 5 室のうち 4 室が稼働中で、定員 4 名で運営しました。入居者の就労先は、福祉的就労 2 名、一般就労 2 名でした。ニーズに応じて最大 5 名まで入居可能です。

【今後の展望】

- ・2024 年 3 月に開設した石部南地域の「こみち」をサテライト化し、「あると」を本体住居として展開する可能性を検討します。

＜生活の支援＞

- ・食事の提供、清掃、衣服管理、身だしなみ支援を行いました。
- ・金銭管理、建物の安全点検、日常的な相談・援助を実施し、関係機関と連携して変化を迅速に把握しました。

＜夜間支援＞

- ・宿直または夜勤スタッフが就寝前と出勤前の見守りを行い、緊急時対応の体制を整備しました。

＜余暇の支援＞

【住人同士の交流促進】

- ・地域行事や福祉施設主催のイベント参加を支援しました。
- ・食事会、季節ごとの外出、ホーム旅行を企画・実施しました。

【社会性の向上】

- ・個々の趣味や嗜好に応じた外出支援を行いました。
- ・一人での外出支援や、必要に応じた付き添い支援を行いました。
- ・日常生活の中で楽しみや豊かさを感じられるよう支援しました。

＜エンパワメント＞

- ・住人の生活や余暇の支援を通じて、「人間関係の築き方やそのあり方」を考え、実行に移す力を向上するよう支援しました。その際の配慮は、以下の点でした。

1. 安心感と信頼の醸成

信頼できる人がいることから生まれる安心感と、他者に信頼される喜びを感じ、不安の少ない毎日を送るための支援を行いました。

2. 自己表現と課題解決の支援

曖昧だった疑問や課題を明確にし、共に解決策を考えることで、自ら解決策を見つけ出す力を養いました。

3. より良い生活の追求

物質的満足だけでなく、精神的に充実した「より良い生活」を追求する大切さを理解できるよう支援しました。

4. 自律的な人生の創造

日常を充実させる中で、他者からの利益を受けるだけでなく、自らの目的を見つけ、主体的に人生を築く力をはぐくみました。

5. 相互関係における充足感の向上

他者への配慮、他者の力を引き出す、自分の力を誰かのために役立てるという相互作用を通じて、自身の充足感を高めるよう支援しました。

<健康管理>

- ・看護師が定期的に健康相談を行い、健康管理の支援や受診支援を行いました。
- ・定期通院や服薬管理を世話人が支援しました。
- ・定期的な歯科健診や清潔な生活習慣の維持、感染症予防対策を推進しました。

<個別支援計画>

- ・サービス管理責任者が年 2 回、世話人・管理者と共に個別支援計画を作成・評価しました。
- ・自己評価を定期的に実施し、サービスの質向上を継続的に図りました。

<研修>

- ・世話人は、法人内の研修および外部研修を受講しました。

<運営の支援>

- ・世話人、サービス管理責任者などが参加する「サポート会議」を「グループ会議」と兼ねつつ開催しましたが、年度後半は、十分に開催できませんでした。
- ・法人外部との個別課題に応じた支援会議に参加し、迅速かつ円滑な支援に努めました。

<リスク管理>

- ・非常事態における生命・財産の保護の仕組みを整えるよう努めました。緊急時に備えて定期的な避難訓練が必要ですが開催できませんでした。次年度は、サポート会議のテーマとするなど、開催に工夫する必要があります。

2024 年度 法人事務局 事業報告書

(1) 総会・理事会・三役会議の開催

2024 年 6 月 16 日にじゅらくの里研修室で総会を開催し、2023 年度事業報告・収支決算、役員の選任等を審議しました。

2023 年 6 月 5 日に第 1 回理事会を開催し、総会での議決事項等を審議しました。年間計 3 回、理事会を開催しました。

第 1 回理事会では、次の三点について報告がありました。

- ① 相談支援事業の事業譲渡（6 月）等について
- ② あったか保育室つぼみの小規模保育化（4 月）の状況について

③ グループ会議での検討課題と今後の展開等について
第2回理事会では、次の2点の審議と1点の報告がありました。

①新たな法人間連携について

②事務局体制の課題と強化について

報告事項 グループ会議での検討課題と今後の展開等について
第3回理事会では、次の2点の審議と1点の報告がありました。

①2025年度事業計画について

②2025年度収支予算について

③新たな法人間連携について

報告事項

a)BCP（2024年度自然災害対応版）

b)BCP（ // 感染症拡大対応版）

c)非常災害対策計画(避難確保計画)（2025年版）

d)感染症予防およびまん延防止指針（2025年版）

（2）法人事務局の運営

- ・障がいが重くなった方や家族等からの相談、就労・住まいのステップアップを希望する方への対応を強化するため、ホーム・事業所が行う個別支援を支援しました。
- ・ホームページを運営し、法人の活動内容、グループホームの空き状況、スタッフやボランティアの募集、イベントの案内などを随時発信しました。
- ・事務・業務の適切かつ迅速な実施を図るため、ネットバンキングに加え、勤怠管理システムを導入しました。また、障がい者福祉サービス支援システムの導入等による業務効率化を図るための準備を始めました。
- ・外部委員を含む「第三者委員および虐待防止・身体拘束等適正化委員」会議を定期開催し、利用者の尊厳や人権を守るための権利擁護体制の維持に努めました。
- ・障がい者グループホームのホーム長会議および全体会議を開催し、給付費制度の変更などを情報共有するとともにホーム・事業所運営に関する課題等について協議しました。

（3）グループ化会議の開催

- ・従来の事業運営や経営判断を行う「単一組織」の体制から、複数のグループごとに判断し経営する「複数組織」の体制にシフトしていく取り組みとして、「グループ化」の検討と実施に向けた外部との調整を進めました。グループ化の目的は、「法人基盤の強化」であり、本人を中心においた「より良いサービスの提供」とそのサービスを続けていくための「事業運営」の安定化を図ることをめざしました。
- ・三つのグループごとに会議を開催し、具体的な課題（①事業所連携を強化する事業形態の模索、②事業所の場所の移転・融合、③組織のスリム化に向けた事業移管、など）の解決に向けての具体的方策を検討しました。
- ・事業移管については、理事会での議論に基づき、サービスの量的・質的な維持・継続を前提として、①提供体制を維持できる運営主体への変更を図ること②生活支援の拠点施設は原則として有償譲渡、例外的に貸与すること③事業移管に必要な資金を円滑に調達することなど、段階的な実施を試行することとなりました。

- ・他の課題については、今後、解決方策の実施に向けた事業計画（人員体制、設備整備、予算）の立案が必要とされます。

（４）会員募集とボランティア募集

- ・2025年3月末の正会員登録数は、 名で、2024年3月末と比べて 名の減となりました。今後とも新規会員の募集を続けます。

（５）スタッフのスキルアップ

研修受講や資格取得にかかる経費・賃金を助成する制度を活用し、スタッフが専門性を高め、キャリア形成につなげられるよう支援しました。今後とも介護や福祉支援の専門性を高めるため、各種の国家資格（介護福祉士、社会福祉士、保育士など）の取得、自己研鑽研修の参加等に必要な支援を行う必要があります。

（６）虐待防止の取り組み

〔虐待防止委員会および身体拘束等適正化検討委員会〕

7月1日、12月4日および3月18日の委員会において虐待防止対策と虐待防止研修について、協議しました。

〔研修〕

12月に外部講師を招き、「（障害者）虐待防止（法）と日頃の支援を考える」と題し、虐待防止研修を開催しました。①虐待防止（法）や身体拘束に関する基本的な理解
②新しい・これまで集合研修を受講していないスタッフ、あるいは、再度の受講を希望する人へ向けて、を泣き用とし、講義・動画視聴とグループワークを2時間、質疑応答や個別相談を45分の時間配分で実施しました。

（７）市民農園の運営

グループホーム南花（さざんか）に隣接する農園を会員や地域住民に開放し、幅広く利用していただきました。

野菜の栽培などの作業を通じた交流や自立支援を促進し、障がい者が地域の一員としてともに暮らせる環境づくりを進めました。

（８）自治会との協働による環境保全活動

地域の自然環境を守り、持続可能なまちづくりを推進するため、河川の水質保全を中心とした環境保全活動を自治会と協力して行いました。清掃や水質調査を通じて、地域の住民と連携しながら環境意識の向上と豊かな自然環境の維持に取り組みました。

（９）市民・事業者・行政との協働活動

地域や分野、対象を横断する総合的な活動を展開するため、わいわいでの運営推進会議、あったかほーむいしべ宿での地域合同研修などを通じて、県や市町、社会福祉協議会、他のNPO団体、地元住民組織などとの連携強化を図りました。

（10）福祉避難所としての利用協定

東日本大震災などでも現実的な課題となりましたが、大災害発生時において多くの支

援がなければ避難生活が送れない障がい者をはじめとする要配慮者の福祉的な避難場所としてグループホームを提供し、避難してきた人に対しての支援を行うことを内容とする協定を、2015年度から湖南省市との間で取り交わしています。(わいわい、南花、ホワイトハウス)

大災害時には、当法人のスタッフや住人さんが被災者の立場になることも考えられますが、支援を求める被災者の受け入れができるよう、今後、災害に備えての用品の備蓄など、可能な限り整える必要があります。

(11) 市有財産（旧医師住宅等）の活用

湖南省から2017年に譲り受けた、GHわいわい隣接の旧医師住宅北棟については、1階に家庭的保育事業所の「あったか保育室つぼみ」を2018年4月1日開所し、2階は、相談事業所の活動拠点「あぼし相談支援センター」として活用しました。

南棟については、2019年4月1日に市から無償譲渡を受け、改修工事を行い、支援が必要な高齢者と障がいのある人とが暮らす「多世代共生ホームきらく」として2019年9月に開所しました。高齢者有料老人ホームについては、今後の利用が見込めないことから、2022年度から障がい者グループホームとして運営しています。